



# ウェルビーイングがつくる未来社会

関彰商事と筑波大学アスレチックデパートメント (AD) がパートナーシップ協定を締結したのは2020年。スポーツによる健康づくりという従来の考え方を更に進め、ウェルビーイング (Well-being、以下Wb) 向上という目標のもと、新たなプロジェクトに乗り出した関彰商事の葉章二取締役と筑波大学ADの山田晋三副アスレチックディレクターが、人がより良く生きる社会の未来について語り合いました。  
(司会は飯村雅明茨城新聞社筑西支社長)

セキショウに関わる全ての人の「人生を豊か」にする

関彰商事と筑波大学が共創プロジェクトに取り組むまでの経緯をお聞かせください。

**山田** スポーツを活用して学生に「より充実した、やりがいのある豊かな人生を送ってほしい」という思いから2018年に筑波大学ADが発足しました。関彰商事とADが共通しており、互いの取り組みが参考になると考えました。個人が心理的・身体的・社会的に充実した状態を目指すWbの観点から、双方の知見を生かしてこのプロジェクトがスタートしました。

**葉** 弊社では、社員一人ひとりの人生をサポートし、幸福につながることを企業全体のパフォーマンス向上に繋がると考えます。本プロジェクトはWbの考えを中心に、お客様や地域の人々、関彰商事に関わる全ての人々の人生を豊かにすることを目的としています。そのためには筑波大学ADの力が不可欠だと考えました。

Wbの考え方では、スポーツは単純に体を鍛える手段に留まりません。どのような観点でスポーツを捉え直したのでしょうか。

**山田** 学校スポーツでは、身体的鍛錬だけでなく精神的学びや社会との交流、人格形成にも目を向け、人材育成の一手段と考えます。ただし、スポーツは勝負がつきもので、「失敗(負け)」を必ず体験します。失敗から立ち直り、いかにして勝利を目指すのか。過程と結果について想像力を働かせながら、次に向かって改善を図る能力はこれからの時代では非常に重要です。

**葉** 大学スポーツやプロスポーツの世界には、必ずコーチやトレーナーがおり、アスリートの「心(メンタル)・技(テクニク)・体(フィジカル)」をバランス良く鍛えています。これは企業においてもフィジカルやメンタル、思考(シンキング)等のあらゆる面から社員をサポートし、心身ともにケアする仕組みが必要で、今回のプロジェクトを通じてその仕組みを確立し、サービスとして提供することで、地域に貢献していきたいと考えています。

具体的な取り組みについてお聞かせください。

**山田** ADでは「Wbが高い状態」の定義化を図っています。学生アスリートを対象に調査し、プログラムを作成・提供しています。企業と大学は立場こそ異なりますが、現状を把握し、課題や不安を明らかにして解決を図る手法は共通しており、この手法を応用し、関彰商事社員のWbを調査して適合するプログラムの開発を始めています。その結果、身体的調査に加えて、精神的・社会的な問題へのアプローチなど、学内に比べて調査の幅が広がりました。

Wb調査、評価モデルの構築、課題の抽出、ソリューションの提供、それらをもとにパッケージにする仕組みを作っていますが、弊社自身が必要があります。弊社にはさまざまな職種・業態があり、それぞれにアンケートを取ってさまざまな視点からの課題を掘り起こしています。ADの知見をもとに課題解決事例を増やして、事業展開に繋げていきたいと考えています。例えば、「心」に対しては、マインドフルネスプログラムの提供、「体」に対しては、フィジカルケアトレーニングや栄養プログラムの提供など、ADへ



の知見をベースにまず、弊社社員をターゲットにモデルケースの構築に取り組んでいます。

**山田** 毎月のミーティングでお互いの課題が見つかり、まさに共創できつつあると実感しています。新型コロナで交流が乏しくなった学生を支援しようと学内で大会を開催した際に様々なデータを取りました。これをセキショウグループの介護施設を利用する高齢者の皆さんにも応用できないかと考えています。

**葉** 体力に課題のある高齢者でも取り組めるのがeスポーツです。機能訓練型サービスにeスポーツを組み合わせることで、身体的・

プロジェクトによって生まれた好循環はありますか。

**山田** 学生にとって社会に出て働き、どのようなキャリアを積むかは大切です。学生は自分に合ったキャリアは何かと模索しています。企業と学生が出会う場の提供は非常にありがたい。多くの企業とマッチングできるようなイベントを両者で企画しています。

**葉** 筑波大学ADとの共創により社員に変化が出てきました。学際

今後、関彰商事と筑波大学が一緒に実現していきたいことは何でしょうか。

**山田** 大学の得意分野は、データが統計的に正しいかエビデンスを取り、事業化することです。関彰商事には多様な業種があり、事業展開やビジネスモデルの開発を関彰商事と一緒にやっていけたらと考えます。筑波大学には優れたノウハウや知見を持っている人が多くいますが、必ずしも社会への応用に結びついていません。今回の共創プロジェクトの中でつながりが生まれることを期待します。

**葉** この地域でトップを行く研究・教育機関の知見をしっかりと享受して、ビジネスと

的な知見とビジネスの視点からの意見が融合し、議論することによって一人ひとりのパフォーマンスが高まっている思いがします。まさにWbを向上させる実践の場だと実感しています。弊社は、仕入先様から提供される枠組みの中で事業展開することが主になっていました。今回の筑波大学ADとの共創プロジェクトは、そういった意味でもチャレンジングなプロジェクトです。

**山田** 大学生にとって、自分は何のために、何の目的でこの大学にきているのか、と考えることはとても重要です。学生自身が未来を思い描くことはWbの考え方にもつながります。Wbとは非常に幅広い「あなたは何のために生まれてきたのか」という問いに近いのです。もう一つの重要なポイントには社会、地域とのつながりです。筑波大学ADでは中学校に大学生を派遣して部活動を支援するプログラムを行っています。指導を受けた生徒が筑波大学に来て大学生アスリートに応援する。このようなつながりがWbな社会を作るきっかけになると考えます。

大学の優れたノウハウや

知見の社会実装を目指す



山田 晋三

国立大学法人筑波大学  
アスレチックデパートメント  
副アスレチックディレクター

企画制作・茨城新聞社営業局

葉 章二

関彰商事株式会社  
取締役 常務執行役員  
ライフサイエンス事業部長

※ライフサイエンス事業部では、高齢者福祉事業・児童福祉事業を行っています

